

まちづくり懇談会議事録【公開用】

日 時：令和元年 10 月 15 日（火）18 時 30 分～19 時 57 分

場 所：総合福祉センター「しゃるる」

出席者：14 人

1. 開会

2. 町長挨拶

※配布資料確認および日程説明

3. 今年度のまちの動き（資料①）

質疑

4. これからのまちづくり（資料②）

5. 懇談

6. その他

(1) 出前型政策・施策説明会「栗山町のまちづくり」について（資料③）

※質疑応答

7. 閉会

《質疑応答》

【栗山赤十字病院について】

町民：

私の住んでいる地区は、900 人中 200 人が 65 歳以上。日赤病院の話題が時々出るが、なくても良いという人は一人もいない。日赤病院が無くなったらどこの病院に行けばいいのか。最寄りに総合病院があるのは安心だという声をよく聞く。先日、北海道新聞に病院の統廃合の記事があり、日赤病院、由仁町・南幌町の各病院が対象になっていたが、長沼町の病院が対象になっていなかった。長沼町の病院と日赤病院とでは何の違いがあるのか。MRI の有無が理由なのか。町として情報があれば教えていただきたい。

福祉総括：

町としても、厚生労働省からの一方的な公表に戸惑っている。長沼町の病院と日赤病院の違いは、日赤病院は救急患者を受け入れる急性期病院のため対象になるが、長沼町の病院は長期療養の高齢者などを受け入れる慢性期病院のため対象にならなかった。この基準もまた、厚生労働省が一方的に決めた基準。一方的な統合を進めないように要望書等にて対応していく。今月中に厚生労働省の発表した経緯等についての説明会が開かれるので、すぐに動くことはないと思われる。町民からのアンケートにより、町から大きな病院が無くなることへの危惧は承知している。日赤病院の今後については、今年度中に皆さんにお話しできると思う。

町長：

今回の町民アンケートでは 10%の世帯からしか回答を得ていないが、日赤病院を身近な診療機関として残していただきたいという意見を多く聞いている。病院はまちづくりの拠点となるも

のなので、簡単に統廃合することはできない。統廃合を決めてから実際に病院ができるまでは7年も8年もかかる。方針が決まったからといってそのまま進むとは考えていない。もっと議論を掘り下げて、適正な病院規模・医療水準を突き詰めていく必要がある。

町民：

国からのトップダウンに流されず、町の総意としてニーズを取りまとめてほしい。

町民：

病院の公立化をするうえで、美唄市や三笠市のような公立病院は参考にならないのか。

町長：

公立の病院を持つことは非常に難しい。現在、日赤病院は民間で経営していて、町から1億円以上の補助金を出している。公立化は一つのテーマになるので、今一度、他の町の町立病院と比較しながら、議論を掘り下げていきたい。

町民：

昔は町立病院を設立するよりも、日赤病院に委託すればお金がかからないという話だった。日赤病院自体はどういう考え方なのか。栗山町の病院として存続の意思があるのか、全くないのか。

町長：

私が東京都の日赤本部を訪ねた時、事業推進の補助などの話をさせていただいたが、日赤本部としては栗山町を中心とした南空知の拠点として、今後も総合病院を維持していくという考えだった。ただ、現在のベッドの数は136床なので、将来的にはそこまでの数は必要ないのではないかという考え方もある。もし日赤病院が改修・改築をしても、町の運営ではなく日赤病院の運営となるが、これからは町の財政との兼ね合いも出てくる。

町民：

栗山町だけで運営費を負担するのは無理だと思う。由仁町や夕張市などの市町村の病院を日赤病院にまとめてもらい、そこに援助をするというのはどうか。

町長：

私も広域設置は効率的だと思う。他の町と力を合わせて、拠点となる病院を作るというやり方は一番効果的だが、他の町にとっても病院が一番大切な行政施設なので、他の町にお金を拠出して病院を作ると、その町へバスなどで通わなければならない、打診はしているが難しさはある。ただ、一つのテーマとして再確認し議論する必要はある。

副町長：

それぞれの町にはそれぞれの病院があり、設備投資をしている。各町の町民も、どの町の病院に通院するかを考えており、拠点病院化を考えることはなかなか難しい。それぞれの病院をそれぞれの町で経営するという方向で、拠点化は考えていない。

町長：

南幌町は江別市と、長沼町は北広島市と協力している。こうした地域は栗山町の方を向かないだろう。町立病院はダウンサイジング化していくのが今の大きな流れ。日赤病院は、ベッド数を減らすことはできるが、今の患者数を考えると、診療所が無ければ難しいだろう。それぞれの町で行っているようなダウンサイジングは栗山町では行えないと思う。

町民：

長沼町立病院は、医者が手に負えなくなった患者を受け入れていると聞く。栗山町民も長沼町の病院に通っている人が結構いる。送り迎えをしてくれるサービスもあるという。長沼町の病院が上手くやっているのは、そうした理由からではないか。

福祉総括：

長沼町民は、43.78%、夕張市民は 56.5%、南幌町民は 60%が札幌方面の病院に通っていて、いずれも札幌圏に向いている。広域設置・公立病院化・医療機関誘致・日赤病院改築改修の4つの選択肢から方向性を定め、今年度中に一定の方向性を定めていく。

【栗山駅周辺・商店街について】

町民：

農協から購入したレンガ倉庫にものづくりの工房や FM 局を入れるとあるが、耐震基準は大丈夫か。防災情報の発信基地にもなるので心配だ。

町長：

江別市のレンガ工場を参考にしながら、耐震工事を行っていく。

建築総括：

レンガ造りなので耐震性はない。普通は斜めに梁をつけ、窓部分を全て壁にするなどの工事をいうが、レンガ倉庫の場合はそうした工事ができない。基本設計は現在協議中なのではっきりとは申し上げられない。江別市のレンガ工場では物産展やイベントを開いて人が集まるようにしているが、内側に鉄骨を組んで耐震性を上げている。内部にもう一つ建物を作るようなイメージで作ることになるだろう。

【栗山高等学校・北海道介護福祉学校の存続について】

町民：

栗山高校に学科を新設するなら、どのような学科にするのか教えていただきたい。個人的には外国人留学生を入学させ、卒業後に介護福祉学校に入学してもらうのが良いと思う。

教育長：

介護福祉士の養成課程は、今後とも町の大きな柱になると思う。将来的には、栗山町だけでも介護福祉士が 150 人から 200 人ほど不足する。介護福祉学校が栗山高校と一緒にさまざまな活動ができるような体制を作りたい。

町長：

介護福祉学校が専門職の短期大学にステップアップするためには、さまざまなハードルがある。介護福祉学校の力だけで乗り越えるのは難しいと思うが、専門職の短期大学になれば国の制度の中で財政支援を受けられるので、そのような支援などを受けるための活動は今後も継続していく。外国人材は昨年度以降、入学できるように働きかけてきたが、生活費の支援がないため、学生が自分で稼がなければならない。栗山町に住んで学校とアルバイトに通うのは難しい。これからの介護人材は、外国人材や高齢者の雇用などで賄うと国は考えているが、都市と地方とでは隔たりがある。しっかりとした技術と知識を持った専門学校が、これからの時代は重要になってくると思う。介護関係の専門学校・養成校が全国に 440 校ほどあったが、この 5 年間で 370 校まで減少した。日本の介護業界を支えていく介護人材が今後どうなるかという心配がある。私自身も施設に入った時、しっかりとした知識と技術を持った職員に介護してもらいたいし、施設の中心になってもらいたい。町の介護施設職員の約 40% は介護福祉学校の卒業生。これからも介護福祉学校を守っていきたい。

【JR の負担金について】

町民：

JR 存続の負担金は町が負担する分もあるのか。

まちづくり総括：

国の保証する期間が、あと 2 年間で切れる。来年度以降は、国と地域で支援の在り方について話し合う。栗山町がすぐに支援の対象外になることはない。

町長：

JR の試算では、再来年以降 280 億円ぐらいの赤字が生じる。国が 200 億円を負担するが、80 億円が不足する。80 億円を国と沿線自治体が 40 億円ずつ負担することになると、栗山町に恒常的に 3000 万円程度の負担となり、非常に財政を圧迫する。国への要請活動を行い、JR 室蘭線を残していきたい。JR の計画も不透明なので、JR 室蘭線の利用状況をしっかり見ていかなければならない。現在の利用者は朝と夕方に偏っている。JR を廃止すれば、代替のバスを使うことになる。子どもたちの大事な交通機関なので、存続に向けて取り組んでいきたい。